

足立区糖尿病対策アクションプラン

歯科口腔保健対策編【中間見直しによる改定版】

～子どもの頃から、野菜をしっかり噛んで食べる
健康な歯と口を目指して～



足立区
平成30年3月

目 次

第 1 章 足立区歯科口腔保健対策編の概要

1 歯科口腔保健対策編の改定にあたって	2
2 本計画の概要	2
3 歯科口腔保健対策編の位置づけ	2
4 計画の期間	3

第 2 章 これまでの取り組みと区民の歯の健康状況

1 0～15歳の歯科口腔保健対策	4
(1) 0～6歳【未就学期】	4
(2) 7～15歳【学齢期】	6
2 歯周病の重症化予防と糖尿病予防【成人期】	8
3 関係機関等との連携	9

第 3 章 今後の歯科口腔保健対策の取り組み

1 中間評価から明らかになった課題	11
2 重点対策のさらなる推進	12
(1) 0～15歳の歯科口腔保健対策	12
0～6歳	
7～15歳	
(2) 歯周病の重症化予防と糖尿病予防	17
(3) 関係機関等との連携と歯科口腔保健を担う人材のスキルアップ	19

- 資料編 -

1 歯科口腔保健対策会議 名簿	22
2 歯科口腔保健対策の推進体制	23
3 子どもの歯と口の健康づくりに関するアンケート結果(平成28年度)	24

第1章 足立区歯科口腔保健対策編の概要

1 歯科口腔保健対策編の改定にあたって

足立区は、平成25年度に「足立区糖尿病対策アクションプラン」を策定し、区民の健康課題の中から「糖尿病対策」に重点を絞って対策を強化し、区民の生活の質(QOL)を向上させるとともに、健康寿命の延伸と医療費の適正化を目指し取り組みを進めています。その基本方針は、**野菜を食べること・野菜から食べること** **子ども** **もの頃からの良い生活習慣の定着** **糖尿病を重症化させない取り組み** の3点です。

野菜を食べるためには、「歯と歯肉の健康」を保ち、よく噛んで食べる習慣が必要ですが、足立区はむし歯がある子どもの割合で23区平均を上回り、さらに未処置歯を持つ割合が高いのが実態です。また、歯周病と糖尿病の相互関係から、歯周病の重症化予防に取り組む必要性もあることなどから、平成26年9月に「足立区糖尿病対策アクションプラン - 歯科口腔保健対策編 - 以下、『歯科口腔保健対策編』」を策定し、庁内外の関係機関、関係部署が横断的につながり、対策を進めてきました。

今回、中間評価年にあたり、これまでの事業の効果や進捗状況の検証を行うとともに、歯科健診結果やアンケートなどのデータを分析することで見えてきた新たな課題等に対応するための取り組みを加え、さらに効果的な歯科口腔保健対策を進めるべく、改定を行いました。

2 本計画の概要

第1章で計画改定の経緯及び位置づけの説明、第2章で、これまでの区の取り組みと区民の歯の健康状況を主に未就学期、学齢期、成人期に分けて示し、第3章では、中間評価から見えてきた課題と今後の歯科口腔保健対策についてまとめました。引き続き、下記(1)～(3)を重点対策と位置づけるとともに、各関係部署・関係機関等との連携を一層推進していきます。

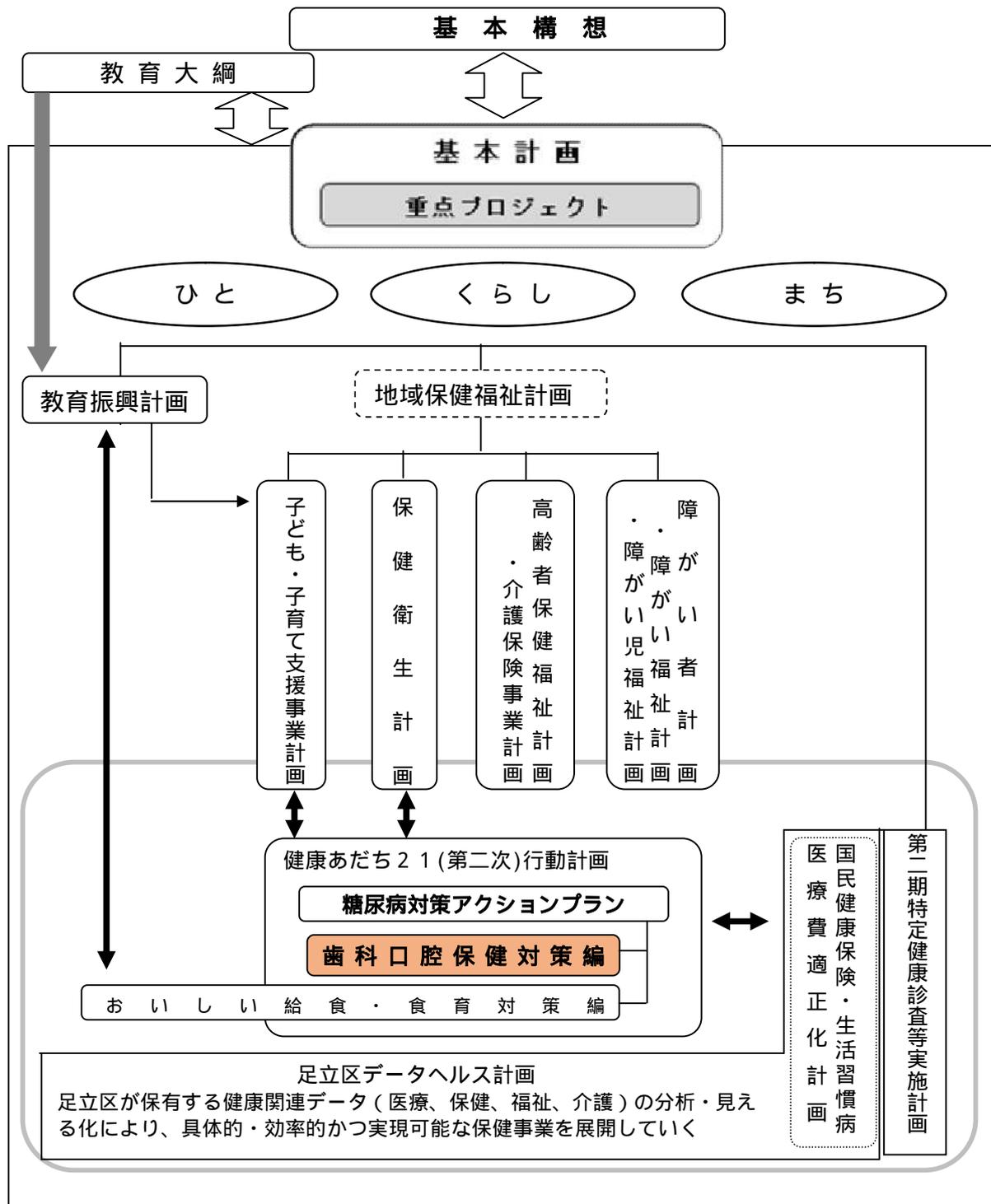
- (1) 0～15歳の歯科口腔保健対策
- (2) 歯周病の重症化予防と糖尿病予防
- (3) 関係機関等との連携と歯科口腔保健を担う人材のスキルアップ

3 歯科口腔保健対策編の位置づけ

本計画は、「足立区第二次重点プロジェクト推進戦略」に位置づけられている「健康あだち21推進事業(糖尿病対策)」の一翼を担っています(図1)。『歯科口腔保健対策編』は、区が保有する健康データ等を活用し、事業の計画・実施及び評価を行います。

また、高齢者や障がい者の歯科口腔保健に関わる課題については、「足立区高齢者保健福祉計画」「足立区障がい者計画・障がい福祉計画」にとりまとめていきます。

(図1) 足立区歯科口腔保健対策の位置づけ



足立区地域保健福祉計画

足立区地域保健福祉の向上をめざし、施策を推進するための基本計画であり、【高齢者】【障がい者】【子育て支援】【健康づくり】の4分野ごとに策定された個別計画をもって一体と成す計画です

4 計画の期間

2014年度(平成26年度)～2022年度の9年間で、2017年度(平成29年度)を中間評価年としています。「健康あだち21(第二次)行動計画」「足立区糖尿病対策アクションプラン」に合わせて評価を行います。

第2章 これまでの取り組みと区民の歯の健康状況

歯科口腔保健対策は、「糖尿病対策アクションプラン」の目的である糖尿病予防ならびに健康寿命の延伸の実現を、歯科口腔の面から実施していくものです。各課題と重点項目(表1)に対するこれまでの取り組みと区民の歯の健康状況の変化をまとめました。

(表1) 糖尿病対策アクションプランと重点対策の位置づけ

		歯科口腔保健対策の課題		
		むし歯予防	歯周病予防	よく噛んで食べる習慣
糖尿病対策アクションプラン	子どもの頃からのよい生活習慣の定着	1 0～15歳の歯科口腔保健対策 (1) 0～6歳【未就学期】 (2) 7～15歳【学齢期】		・食べる機能の育成 ・野菜からよく噛んで食べる習慣づくりの推進 おいしい給食・食育対策編
	糖尿病の重症化予防	2 歯周病の重症化予防と糖尿病予防【成人期】		・野菜からよく噛んで食べる習慣づくりの推進
	野菜を食べる環境づくり			
	環境の整備	3 関係機関等との連携と歯科口腔保健を担う人材のスキルアップ		

1 0～15歳の歯科口腔保健対策

(1) 0～6歳【未就学期】

これまでの取り組み

衛生部、子ども家庭部が連携して、4～6歳児対象のあだちっ子歯科健診や各歯科健診後のフォロー事業等を開始し、未就学児のむし歯予防を進めています。

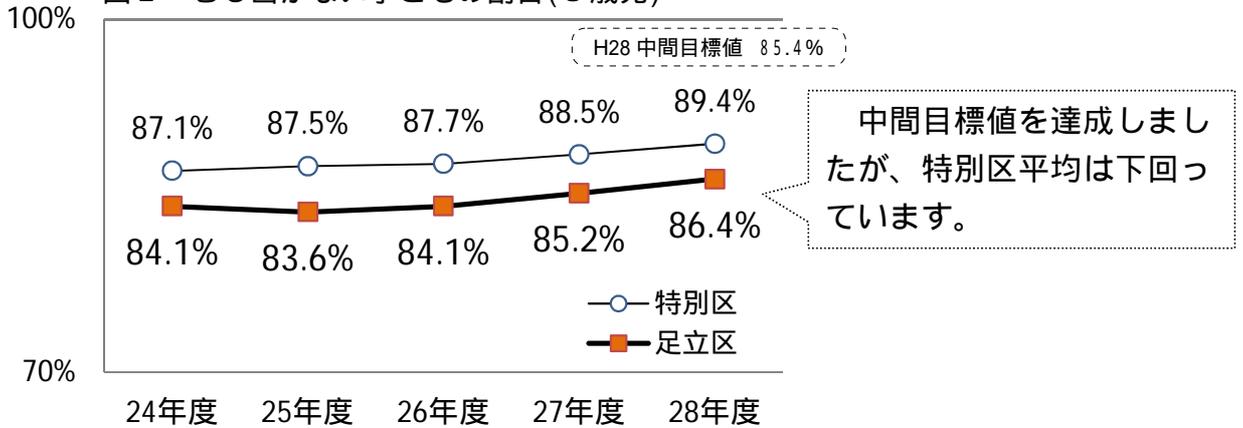
これまでの重点的な取り組み	
1 親子はじめて歯科健診(9か月～1歳2か月児)の実施回数増加	拡充
回数・参加者数 (H24) 114回・3,904人 (H28) 130回・5,160人	
2 歯科健診フォロー事業	新規
・1歳6か月児(H28年度開始) ・3歳児(H27年度開始)	
3 あだちっ子歯科健診	新規
4～6歳を対象に、歯科健診・受診(治療)勧奨・報告をセットに実施	
・H26 認可保育園、認証保育所(一部)で開始	
・H27 参加施設率 93.6%(私立幼稚園、未通園児に拡大)	
・H28 参加施設率 97.2%	
4 年長児対象・6歳臼歯健康教室	拡充
施設数・参加者数 (H24)40施設・1,653人 (H28)119施設・3,893人	

第2章 これまでの取り組みと区民の歯の健康状況

0～6歳の歯の健康状況と課題

ア) むし歯がない子どもの割合(3歳児)

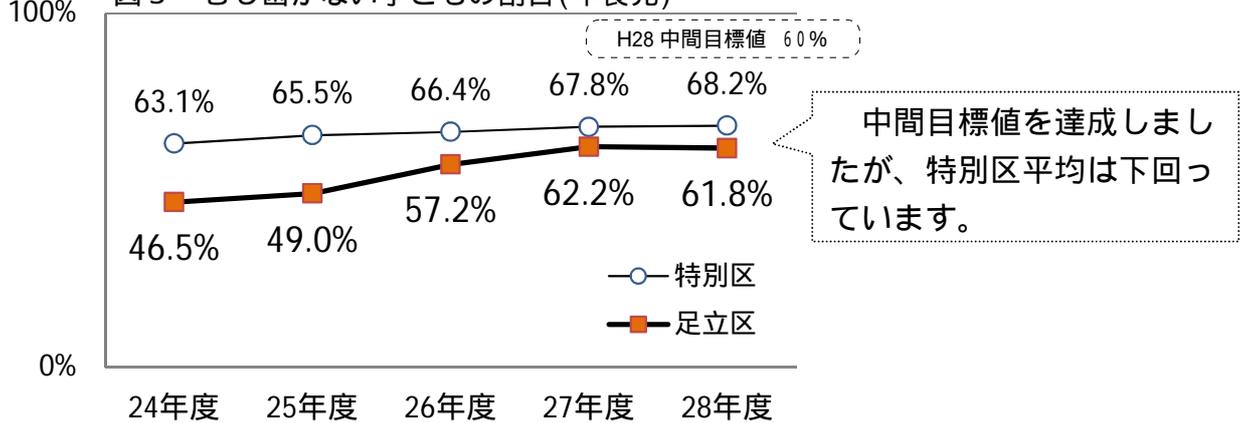
図2 むし歯がない子どもの割合(3歳児)



(出典:東京の歯科保健)

イ) むし歯がない子どもの割合(6歳・年長児)

図3 むし歯がない子どもの割合(年長児)



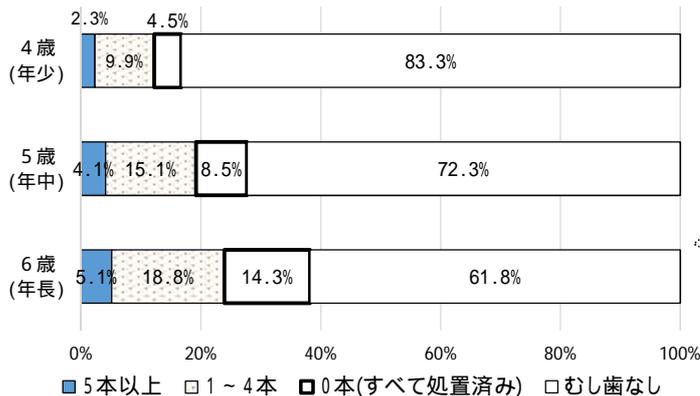
足立区のH24、H25は区立保育園のみの実績 H26は認可保育園と認証保育所(一部)
特別区平均は、品川・渋谷・練馬を除く20区

(出典:あだちっ子歯科健診結果報告書、東京の歯科保健)

新たな課題

「未処置のむし歯」を5本以上保有する子どもが多い状況です。

図4 未処置のむし歯を5本以上保有する割合
4歳(年少児)～6歳(年長児)



「未処置のむし歯」を5本以上保有する割合は、年齢が上がるごとに増加し、年長児では、5.1%です。

(出典:平成28年度あだちっ子歯科健診結果報告書)

(2) 7～15歳【学齢期】

これまでの取り組み

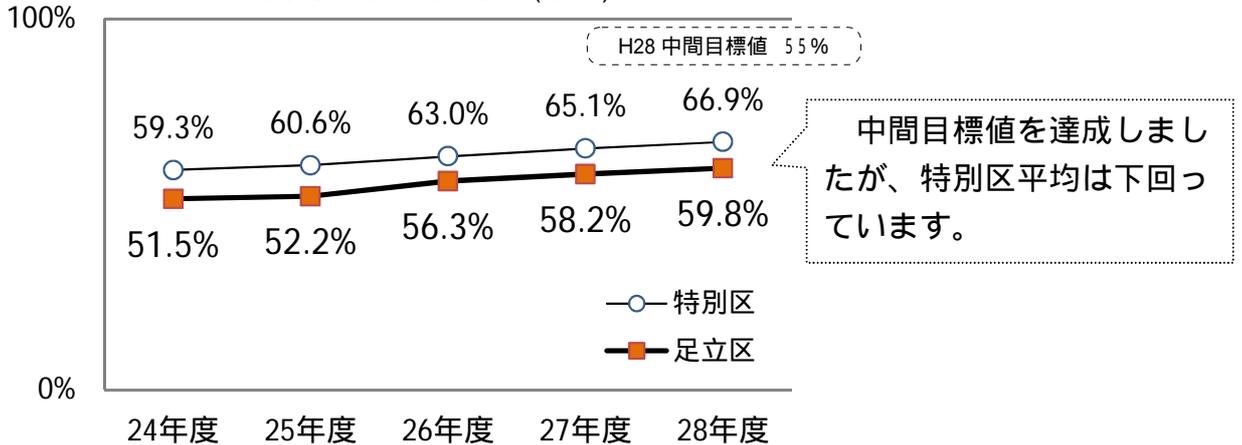
各学校において、受診(治療)勧奨や給食後の歯みがきの取り組みを実施することで、学齢期のむし歯予防を進めています。

これまでの重点的な取り組み	
1 受診(治療)勧奨の強化	
2 給食後の歯みがき推進	
3 小学校低学年対象・6歳臼歯健康教室	拡充
実施校数・参加者数	(H24) 2校・128人 (H28) 36校・3,746人

7～15歳の歯の健康状況と課題

ア) むし歯がない子どもの割合(7歳・小学1年生)

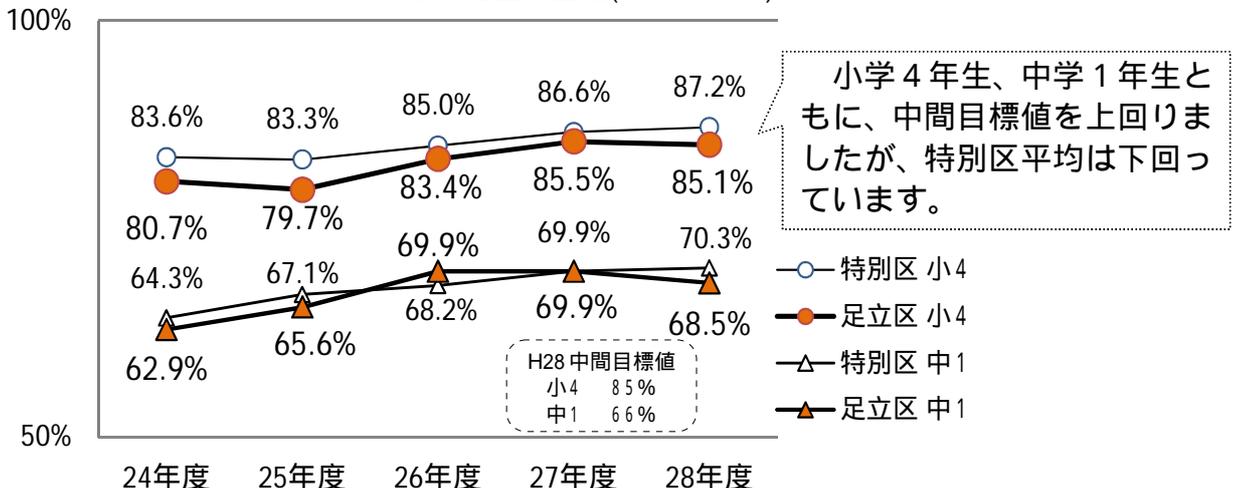
図5 むし歯がない子どもの割合(小1)



(出典:東京都学校歯科保健統計)

イ) 永久歯にむし歯がない児童・生徒の割合(小学4年生・中学1年生)

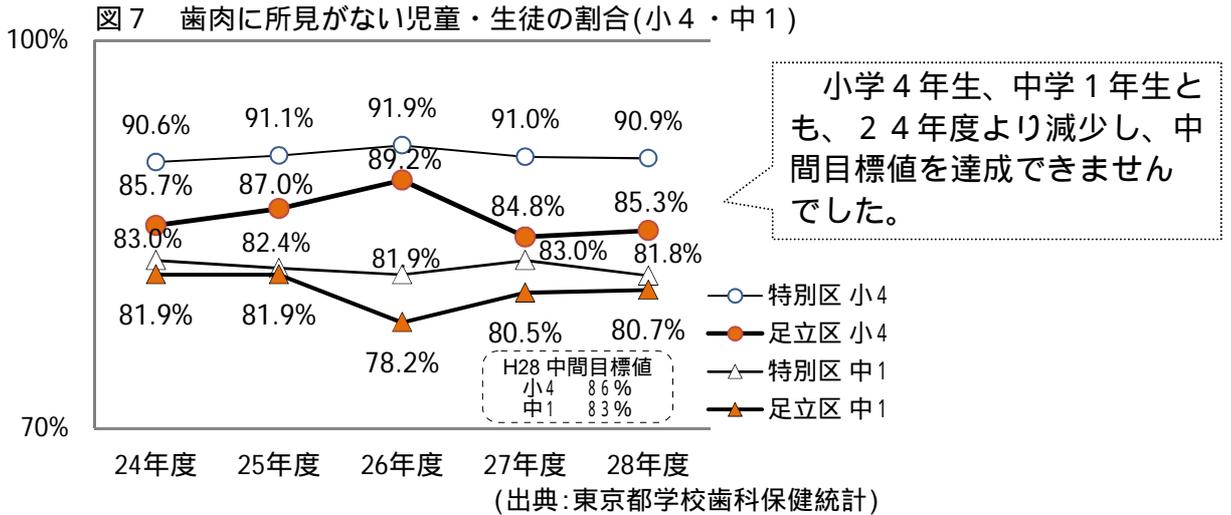
図6 永久歯にむし歯がない児童・生徒(小4・中1)



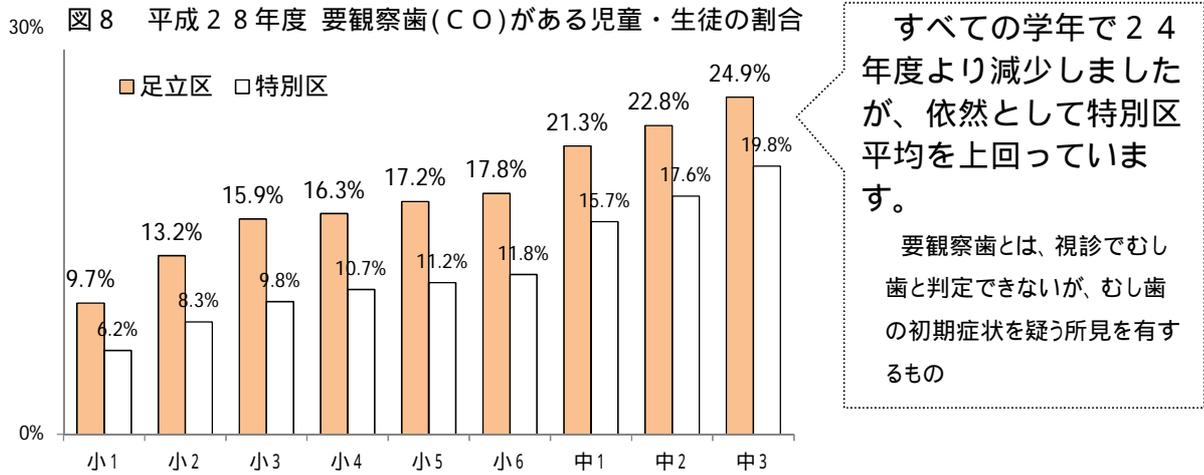
(出典:東京都学校歯科保健統計)

第2章 これまでの取り組みと区民の歯の健康状況

ウ) 歯肉に所見がない児童・生徒の割合(小学4年生・中学1年生)



エ) 要観察歯(CO)がある児童・生徒の割合



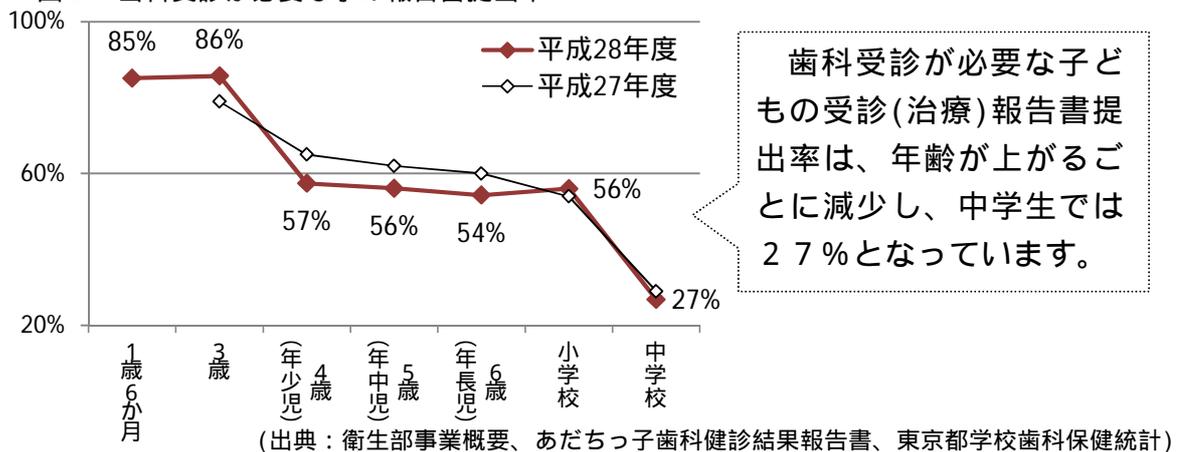
(参考値)平成24年度

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
足立区	11.5%	15.8%	17.8%	21.0%	21.5%	20.6%	25.6%	27.4%	31.4%
特別区	6.5%	9.1%	10.6%	11.6%	12.5%	12.8%	17.6%	19.7%	22.7%

新たな課題

歯科健診後の受診(治療)報告書提出率は、年齢が上がるごとに低下しています。

図9 歯科受診が必要な子の報告書提出率



2 歯周病の重症化予防と糖尿病予防【成人期】

(1) これまでの取り組み

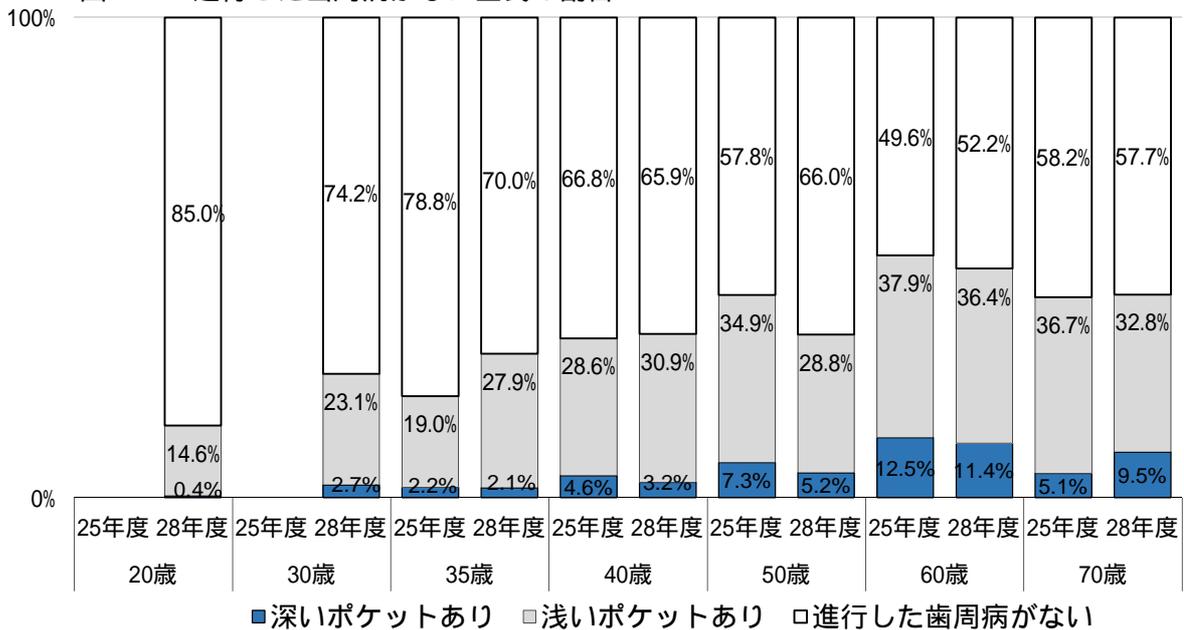
歯周病と糖尿病は相互関係にあることから、特に、若い世代への歯周病予防の啓発と、糖尿病の重症化予防の取り組みを進めています。

これまでの重点的な取り組み	
1	成人歯科健診の対象年齢を若い世代に拡大 ・ H26 年度 40 歳～80 歳（40・50・60・70 歳のみ個別勧奨） ・ H27 年度～ 20 歳・25 歳・30 歳・35 歳・40 歳・50 歳・60 歳・70 歳 拡充 （全て個別勧奨）
2	医科歯科薬科連携事業開始（H27 年度～） 新規 ・ 医師会、歯科医師会、薬剤師会が連携し、糖尿病重症化予防を推進 ・ 59 歳以下で、HbA1c7.0 以上かつ医師の紹介がある区民は、「成人歯科健診」が受診できる「医科歯科連携チケット」の運用開始（H28～）

(2) 成人期の歯・口腔の健康状況と課題

進行した歯周病がない区民の割合

図10 進行した歯周病がない区民の割合



H28 中間目標値			
35 歳	80%	40 歳	69%
50 歳	60%	60 歳	54%

(出典:足立区成人歯科健診結果)

進行した歯周病がない区民の割合で、目標に達したのは50歳のみでした。平成28年度に成人歯科健診を受診した20歳の約15%が、すでに歯周ポケットをもっていることがわかりました。

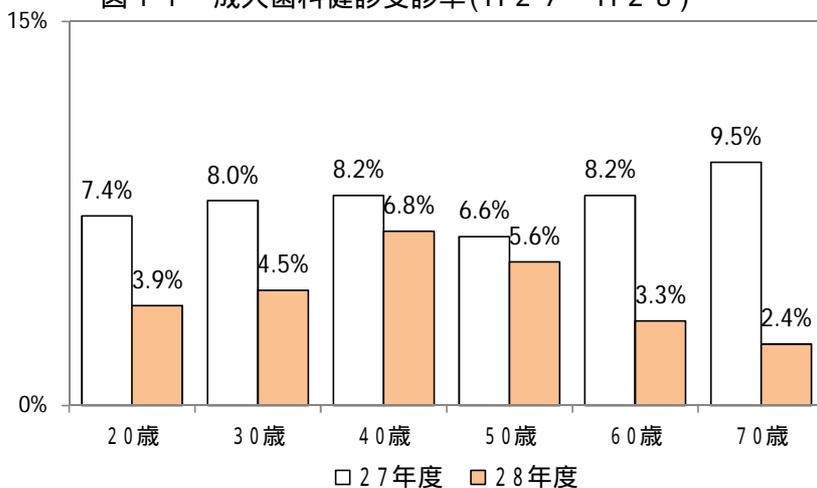
歯周病が進行すると、歯と歯肉の境目の溝が深くなります(歯周ポケット)

- ・浅いポケット：4～5ミリ
- ・深いポケット：6ミリ以上

新たな課題

成人歯科健診受診率は、特別区平均より低い状況です。

図1.1 成人歯科健診受診率(H27・H28)



平成28年度は、すべての年齢で前年度を下回り、40歳・50歳を除いて、5%未満という結果でした。

【参考】

平成28年度(40歳・50歳・60歳・70歳)
足立区 4.8% 特別区 8.7%

(出典:足立区成人歯科健診結果・東京の歯科保健)

3 関係機関等との連携

(1) これまでの取り組み

保育園・幼稚園・小中学校等、子どもに関わる関係機関と連携し、子どもの歯みがき習慣づくりや歯みがき指導実施施設を拡大しました。また、各園の優れた取り組みを表彰する表彰事業を開始しました。

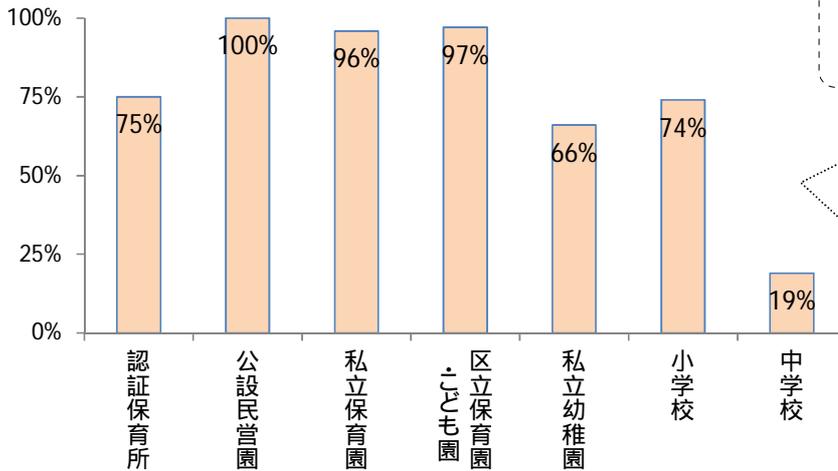
重点的な取り組み	
1	あだち版・子どもの歯みがきマニュアルの作成・配布 (H27年度) 新規
2	給食後の歯みがき(毎日)の取り組み <small>実施年齢(学年)は、施設・学校による</small>
	・認可保育所 (H25) 9.3% (H28) 9.5%
	・幼稚園 (H25) 5.6% (H28) 6.6%
	・小学校 (H25) 7.3% (H28) 7.4%
	・中学校 (H25) 2.7% (H28) 1.9%
3	あだちっ子・いい歯推進園表彰事業 (H27年度～) 新規
	・応募施設数 H27年度 25園、H28年度 26園

(2) 関係機関との連携状況と課題

関係機関と連携し、4～6歳児のすべての子どもが年に1回歯科健診を受けられるよう「あだちっ子歯科健診」を開始しました。また、給食後の歯みがき(毎日)や6歳臼歯育成に取り組む施設の割合は、施設の種別により差がみられます。

給食後の歯みがきに毎日取り組む園・学校の割合

図1-2 給食後の歯みがきに毎日取り組む園・学校の割合



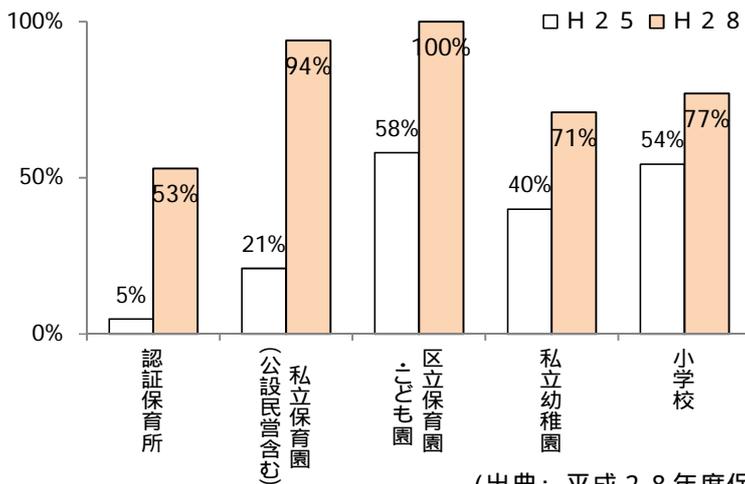
H28 中間目標値
 認証保育所 90% 認可保育所 100%
 私立幼稚園 75% 小学校 90%
 中学校 70%

公設民営園、区立園・私立保育園の割合が高くなっています。小学校は74%ですが、中学校は19%と低い状況です。実施年齢(学年)は、施設・学校による

(出典:平成28年度保育・教育施設取り組みアンケート)

6歳臼歯の育成に取り組む園・学校の割合

図1-3 6歳臼歯の育成に取り組む割合(H25・H28比較)



H28 中間目標値
 認証保育所 70% 認可保育所 80%
 私立幼稚園 70% 小学校 75%

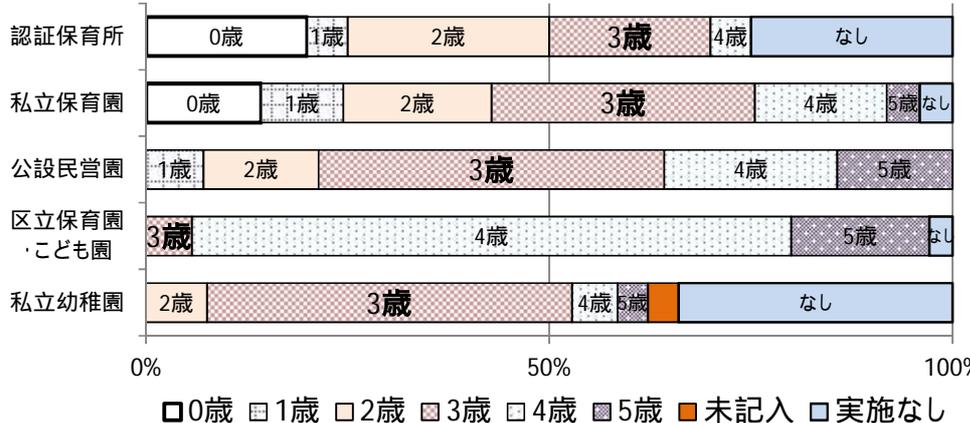
6歳臼歯の育成に取り組む施設の割合は年々増加し、認可保育所、私立幼稚園、小学校は中間目標値を達成しました。

(出典:平成28年度保育・教育施設取り組みアンケート)

新たな課題

保育施設・幼稚園における給食後の歯みがきは、実施の有無および開始年齢など、施設により差がみられます。

図1-4 平成28年度給食後の歯みがき開始年齢 認証保育所は、3歳以上が在籍する施設



区立園を除き、3歳児までに給食後の歯みがきを開始している施設が5割を越えています。一方、認証保育所、幼稚園では、未実施の割合が多くなっています。

第3章 今後の歯科口腔保健対策の取り組み

1 中間評価から明らかになった課題

中間評価及び歯科健診データ等の分析から、子どものむし歯予防対策では一定の効果が見られましたが、歯肉に所見のある子どもや進行した歯周病がある大人の割合の多さ等、歯周病予防対策は、さらに検討を進める必要があります。また、あだちっ子歯科健診の結果をデータ化したことで、「1人で多数歯にむし歯をもつ未就学児」の課題が明らかとなりました。今後は、各関係部署・関係機関との連携を強化し、ポピュレーションアプローチ(1)に加えて、ハイリスクアプローチ(2)の取り組みも強化し、区民の歯・口腔の健康づくりを進めていきます。

- 1 ポピュレーションアプローチ:まだ高リスクを抱えていない集団に働きかけ、集団全体のリスクを軽減したり、病気を予防したりすること。
- 2 ハイリスクアプローチ:疾病を発生しやすい高いリスクを持った人に対処していくこと。

【中間評価から明らかになった主な課題】

 新たな課題

子どもの課題(全体的な傾向)

 新

小学1年生のむし歯がない子どもの割合は、毎年増加しているものの、特別区平均より7.1ポイント低く、特別区で最も少ない状況にある(P6)
歯肉に所見のある子どもの割合は、小学4年生の15%、中学1年生の19%と多く、特別区平均を上回っている(P7)
要観察歯(CO)を持つ中学生の割合は、20%を超えている(P7)
要医療の子どもの受診(治療)報告書の提出率は、3歳児86%、小学生56%、中学生27%と年齢が上がるごとに低下している(P7)

子どもの課題(個別の課題)

 新

年長児の5.1%が「未処置のむし歯」を5本以上持っている(P5)

成人期の課題

 新

歯肉に歯周ポケットがある割合は、60歳の48%(約2人に1人)と高い状況だが、20歳でも15%(約7人に1人)存在する(P8)
成人歯科健診の受診率が低い(P9)

関係機関との連携における課題

 新

未就学児における歯みがき習慣づくりの開始年齢や実施状況等、各施設により差がみられる(P10)

2 重点対策のさらなる推進

中間評価の結果をふまえ、引き続き下記の3つを柱として歯科口腔保健対策を進めます。対策を進める上では、各歯科健診や問診の結果等、データの分析・活用ならびに事業評価を行い、より効果的な対策を検討していきます。

〔重点対策〕

- (1) 0～15歳の歯科口腔保健対策
- (2) 歯周病の重症化予防と糖尿病予防
- (3) 関係機関等との連携と歯科口腔保健を担う人材のスキルアップ

(1) 0～15歳の歯科口腔保健対策

0～6歳（未就学期）は、「他律的健康づくりの時期」であるため、家庭や保育・教育施設等へ幅広いアプローチをすることで、歯みがきや食習慣づくりをはじめとする「子どもの成育環境」の向上を目指します。また、7～15歳（学齢期）を「自律的健康づくりの時期」と位置づけ、子どもたちが自ら、歯や口腔の健康習慣を習得できるような対策を講じていきます。

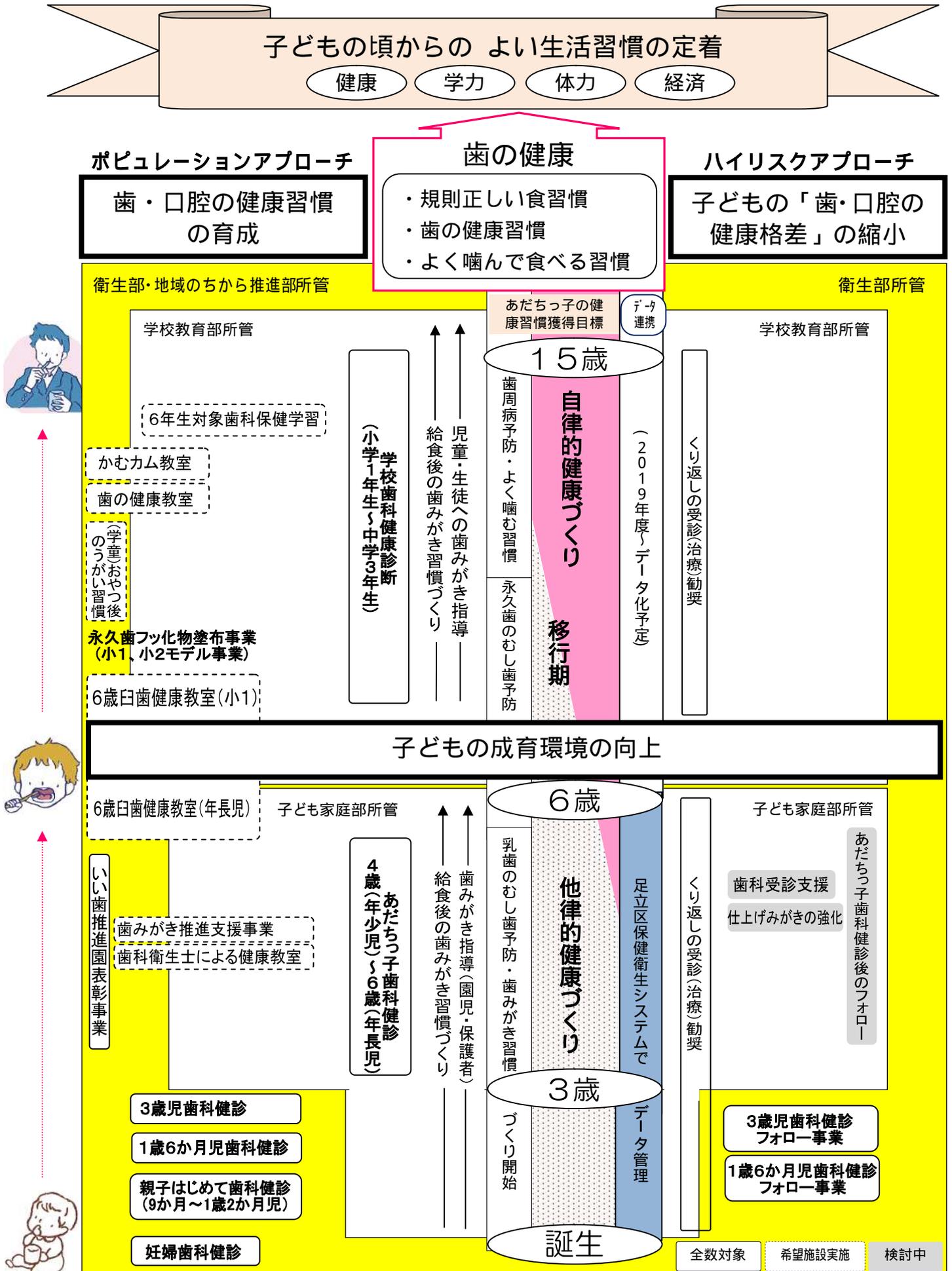
加えて、歯科健診データから見える「未処置のむし歯の本数が多い子ども」等、新たな課題については、これまで以上にハイリスクアプローチに取り組むことで、子どもの「歯・口腔の健康格差」の縮小を目指すとともに、将来の健康の礎をつくります。

この年齢層に対しては、衛生部・地域のちから推進部・子ども家庭部・学校教育部が連携して歯科口腔保健対策を進めていきます。

「0～15歳の歯科口腔保健対策」の方向性

年齢	ポピュレーション アプローチ	追加 ハイリスク アプローチ	評価
7～15歳(学齢期) 子どもが自ら健康になる 力を育成 (自律的健康づくり)	○ 歯・口腔の健康習慣の育成 1 歯みがき習慣が身につく 2 6歳臼歯、12歳臼歯 を自分で守れる 3 歯肉の健康を保つ	○ 子どもの「歯・口腔の 健康格差」の縮小 1 未処置むし歯の減少 2 口腔崩壊している子 どもの減少	毎年度 歯科健診・ 問診結果等 を集計分析 ↑↓ 取り組み効 果の検証・ 見直し
0～6歳(未就学期) 子どもの健康を守る環境 をつくる (他律的健康づくり)	1 永久歯が生える準備 (乳歯の健康を保つ) 2 奥歯の仕上げみがき 3 家庭、関係機関の支援 ○ 子どもの成育環境の向上	・ていねいな受診(治療)勧奨	

【図15】「0～15歳の歯科口腔保健対策」事業体系図



成果指標【0～6歳】

指標		現状値 2012年度 (24年度)	中間評価 2016年度(28年度)		目標値 2022年度
			目標値	実績値	
むし歯がない子どもの割合 (むし歯には処置済みも含む)	3歳	84.1%	85.4%	86.4%	90%
	6歳 (年長児)	46.5% 1	60%	61.8%	70%
【新】5本以上未処置のむし歯 がある子どもの割合	6歳 (年長児)			5.1%	3%
甘い飲み物を与えない 保護者の割合	3歳	68.0%	75%	76.0%	85%
仕上げみがきを毎日している 保護者の割合	3歳	96.4%	98%	97.0%	100%
	6歳 (年長児)	-	72%	72.3%	80%
かかりつけ歯科医をもつ 子どもの割合	3歳	43.2%	50%	49.2%	55%
フッ化物配合歯みがき剤を 使用している子どもの割合	3歳	53.8%	60%	60.3%	70%
	【新】6歳 (年長児)			67.1%	72%
【新】6歳臼歯が永久歯である と知っている保護者の割合	6歳 (年長児)			54.4%	70%

1 区立保育園のみの結果

(出典：足立区3歳児歯科健診、あだちっ子歯科健診結果報告書、6歳臼歯健康教室事前アンケート)

0～6歳児対象の主な事業一覧

事業・活動内容 【目標】	目的・具体的な内容 (指標の定義)	中間実績値 2016年度 (28年度)	最終目標値 2022年度	担当所管
妊婦歯科健診の 受診率を増やす	妊娠期の歯・歯肉の健康及び子どもの むし歯予防について啓発する。 指標：妊婦歯科健診を受診した割合	-	27%	データヘルス推 進課
親子はじめて歯科 健診(こんにち歯 ひろば)の参加者 を増やす 【回数・参加人数】	乳歯が生え始める1歳前後の子ども と保護者を対象に、親子歯科健診なら びに甘味習慣や歯みがき相談等を行 い、乳歯のむし歯予防を推進する。 指標：1歳前後の親子対象「歯の健康 教室」の実施回数と参加人数	130回 5,160人	130回 5,500人	データヘルス推 進課、中央本町 地域・保健総合 支援課、保健セ ンター
乳幼児歯科相談事 業等で甘味習慣や 歯みがき習慣の啓 発をする	主に0～3歳の子どもと保護者を対 象に、歯科衛生士が個別相談を行う。 指標：乳幼児歯科相談の実施回数と 参加者数	66回 1,936人	66回 2,000人	

第3章 今後の歯科口腔保健対策の取り組み

0～6歳児対象の主な事業一覧

事業・活動内容 【目標】	目的・具体的な内容 (指標の定義)	中間実績値 2016年度 (28年度)	最終目標値 2022年度	担当所管
1歳6か月児歯科健診フォロー事業 【受診報告書の提出率】	歯科健診の結果、要医療の子どもに ていねいに受診(治療)勧奨を行い、 歯科受診につなげる。 指標：受診報告書の提出率	78%	82%	保健予防課、中央本町地域・保健総合支援課、保健センター
3歳児歯科健診フォロー事業 【受診報告書の提出率】	歯科健診の結果、要医療の子どもに ていねいに受診(治療)勧奨を行い、 歯科受診につなげる。 指標：受診報告書の提出率	76.2%	80%	
あだちっ子歯科健診(4～6歳児)の受診率を向上させる	4(年少児)～6歳(年長児)を対象に、 統一基準・ていねいな受診(治療)勧奨・ 結果の集計分析をセットに歯科健診を 実施する。			子ども家庭部
	私立幼稚園・認定こども園	98.7%	100%	子ども政策課
	区立保育園・認定こども園	99.1%	100%	子ども施設運営課
	公設民営園	99.0%	100%	
	私立保育園	99.7%	100%	子ども施設整備課
	認証保育所	98.5%	100%	子ども施設入園課
未通園児	7.7%	15%	子ども政策課	
あだちっ子歯科健診(4～6歳)後の治療報告書提出率を向上させる	歯科健診の結果、要医療の子どもに ていねいに受診(治療)勧奨を行い、 歯科受診につなげる。			子ども家庭部
	私立幼稚園・認定こども園	49%	60%	子ども政策課
	区立保育園・認定こども園	62%	75%	子ども施設運営課
	公設民営園	61%	75%	
	私立保育園	68%	75%	子ども施設整備課
	認証保育所	70%	75%	子ども施設入園課
未通園児	50%	60%	子ども政策課	
6歳臼歯健康教室(年長児)を実施する	生え始めの6歳臼歯のむし歯予防のため、 年長児および保護者を対象に、 6歳臼歯健康教室を実施する。 指標：実施施設数と参加人数	119施設 3,893人	130施設 4,200人	データヘルス推進課、中央本町地域・保健総合支援課、保健センター
仕上げみがきの個別指導	「親子はじめて歯科健診」「1歳6か月児 歯科健診」「3歳児歯科健診」等で、 保護者に個別歯みがき指導を行う。 指標：保護者への個別歯みがき指導 実施人数	8,589人	8,700人	

成果指標【7～15歳】

指標		現状値 2012年度 (24年度)	中間評価 2016年度(28年度)		目標値 2022年度
			目標値	実績値	
むし歯がない児童の割合	7歳(小1)	51.5%	55%	59.8%	65%
6歳臼歯にむし歯がない児童の割合	9歳(小3)		90%	90.3%	92%
永久歯にむし歯がない 児童・生徒の割合	10歳(小4)	80.7%	85%	85.1%	87%
	13歳(中1)	62.9%	66%	68.5%	70%
歯肉に所見のない 児童・生徒の割合	10歳(小4)	85.7%	86%	85.3%	90%
	13歳(中1)	81.9%	83%	80.7%	84%

7～15歳児対象の主な事業一覧

事業・活動内容 【目標】	目的・具体的な内容 (指標の定義)	中間実績値 2016年度 (28年度)	最終目標値 2022年度	担当所管
小学校における歯科受診勧奨の強化	歯科健診有所見者に対し、受診(治療)勧奨を強化するよう各小学校に依頼する。指標：歯科受診報告提出率	56%	80%	学務課(区立小学校)
中学校における歯科受診勧奨の強化	歯科健診有所見者に対し、受診(治療)勧奨を強化するよう各中学校に依頼する。指標：歯科受診報告提出率	27%	65%	学務課(区立中学校)
6歳臼歯健康教室(小学校低学年)を実施する	生え始めの6歳臼歯のむし歯予防のため、小学校低学年児童及び保護者を対象に6歳臼歯健康教室を実施する。指標：実施施設数と参加人数	36校 3,746人	50校 5,000人	データ推進課、中央本町地域・保健総合支援課、保健センター
小学校における歯みがき指導の実施	各小学校で6歳臼歯等に関する歯みがき指導を実施する。指標：実施校数	17校	20校	学務課(区立小学校)
保健学習での指導	小学校第6学年の保健学習「病気の予防」の中で、むし歯や歯周病の予防について学習する。		100%	教育指導課
学童保育室において、おやつ後は丁寧にうがいをする	むし歯予防のため、おやつ後のうがいを実施する。自分の歯と口への関心を高め、食べた後のうがいが習慣づくようにする。歯の衛生に関して、おたより等で啓発していく。		100%	住区推進課
小学校での歯みがきの実施	全学年・毎日歯みがきを行うよう各小学校に働きかけ、永久歯にむし歯がない児童の割合を増やす。指標：全学年・毎日歯みがき実施率	71%	100%	学務課(区立小学校)
中学校での歯みがきの実施	全学年・毎日歯みがきを行うよう各中学校に働きかけ、永久歯にむし歯がない生徒の割合を増やす。指標：全学年・毎日歯みがき実施率	11%	50%	学務課(区立中学校)

(出典：東京都学校歯科保健統計、足立区の学校歯科保健の取り組みに関する調査)

第3章 今後の歯科口腔保健対策の取り組み

(2) 歯周病の重症化予防と糖尿病予防

歯周病により糖尿病のコントロールが不良になり、同時に歯周炎も進行していくという悪循環に陥ります。一方、歯周病の治療を行うことにより、糖尿病が改善されるなど、歯周病と糖尿病は相互関係にあります。

そのために、若い世代の成人歯科健診受診率の向上に取り組み、早期からの歯周病予防を積極的に啓発します。また、医科・歯科の連携が円滑に進み、歯周病と糖尿病の重症化予防が進むよう、働きかけを強化していきます。

【主な成果指標】

指標	現状値 2012年度 (24年度)	中間評価 2016年度(28年度)		目標値 2022年度	
		目標値	実績値		
進行した歯周病のない 区民の割合	20歳		85.0%	90%	
	35歳	78.8%	80%	80%	
	40歳	66.8%	69%	65.9%	75%
	50歳	57.7%	60%	66.0%	70%
	60歳	49.5%	54%	52.2%	60%
糖尿病と歯周病の関係 について知っている 区民の割合	20歳		23.2%	30%	
	35歳		35%	35.8%	45%
	40歳		35%	37.8%	45%
	50歳		35%	45.6%	50%
	60歳		35%	67.3%	70%
定期的に歯科管理を 受ける区民の割合	20歳		24.0%	40%	
	35歳	33.0%	36%	28.1%	40%
	40歳	26.3%	32%	25.9%	40%
	50歳	31.3%	34%	25.1%	40%
	60歳	33.6%	36%	37.3%	40%
1日1回はていねいに (5分以上)歯をみがく 区民の割合	20歳		19.9%	40%	
	30歳	16.2%	25%	18.5%	40%
	40歳	39.5%	43%	14.8%	50%
	50歳	40.4%	43%	17.2%	50%
	60歳	39.9%	43%	15.5%	50%
週に1回以上歯間清掃具 を使用する区民の割合	20歳		9.8%	20%	
	35歳	30.9%	34%	30.4%	40%
	40歳		34%	35.5%	45%
	50歳		34%	42.1%	50%
	60歳		34%	48.6%	50%

(出典：平成28年度 成人歯科健診結果)

 すべての成果指標に、20歳を追加

歯周病の重症化予防と糖尿病予防の主な事業一覧

事業・活動内容 【目標】	目的・具体的な内容 (指標の定義)	中間実績値 2016年度 (28年度)	最終目標値 2022年度	担当所管
成人歯科健診の受診率を向上させる	全数(20歳～70歳) 若い世代を中心に、受診率向上に向けて啓発を強化する。	4.5%	10%	データヘルス推進課
	20歳	3.9%	10%	
	30歳	4.5%	10%	
	40歳	6.8%	10%	
	50歳	5.6%	10%	
	60歳	3.3%	8%	
医科歯科連携チケットの活用数を増加させる	糖尿病があり、歯科に通院していない区民を対象に、内科から歯科を紹介し、「医科歯科連携チケット」を活用して歯周病チェックを受けやすくする連携事業を実施する。 指標: 医科歯科連携チケットの活用件数	4件	35件	データヘルス推進課、こころとからだの健康づくり課
糖尿病と歯周病の関係を啓発する	歯周病と糖尿病の関係について歯科医師会等、関係機関と連携して、区民に啓発する。 指標: 医科歯科連携協力歯科医療機関数	186件	200件	データヘルス推進課
歯周病予防教室を開催する	歯周病と糖尿病の関係の啓発を含め、歯周病の重症化予防について、健康教室を開催する。	5回 199人	10回 300人	データヘルス推進課、中央本町地域・保健総合支援課、保健センター
親子歯科健診受診者等、保護者向け歯みがき相談の実施	保健センターを利用する子どもの保護者を対象に、歯みがきや歯間清掃具の使用方法等、歯科衛生士による歯科保健指導を実施する。	55回 285人	60回 300人	

第3章 今後の歯科口腔保健対策の取り組み

(3) 関係機関等との連携と歯科口腔保健を担う人材のスキルアップ

歯科口腔保健対策を効果的に進めるためには、保育園、幼稚園、小・中学校等の保育士や看護師、教諭・養護教諭等と連携して、子どもおよび保護者に対して「受診(治療)勧奨」や「歯みがきや規則正しい食習慣」「健康な永久歯の育成」等について継続的に働きかける仕組みづくりが必要です。

【主な成果指標】

指標	現状値 2012年度 (24年度)	中間評価 2016年度(28年度)		目標値 2022年度
		目標値	実績値	
【新】「歯みがき指導」を実施する園・学校の割合	認可保育園		90%	100%
	幼稚園		68%	80%
	小中学校		-	100%
【新】年少児から「給食後の歯みがき(毎日)」に取り組む教育・保育施設の割合	認証保育所		70%	100%
	認可保育園		48%	100%
	幼稚園		53%	80%
【新】「給食後の歯みがき(全学年・毎日)」に取り組む学校の割合	小学校		71%	100%
	中学校		11%	50%
「6歳臼歯の育成」に取り組む園・学校の割合	認可保育園	36.6%	80%	100%
	幼稚園	40%	70%	
	小学校	54.3%	75%	

(出典：平成28年度 子どもの歯と口の健康づくりアンケート結果)

関係機関と連携した主な事業一覧

事業・活動内容 【目標】	目的・具体的な内容 (指標の定義)	中間実績値 2016年度 (28年度)	最終目標値 2022年度	担当所管
歯みがき指導を実施する保育施設・幼稚園の割合を増やす	歯みがき指導を実施する保育施設・幼稚園・こども園が増えるよう、働きかける。			子ども家庭部
	私立幼稚園	68%	80%	子ども政策課
	区立保育園・こども園	100%	100%	子ども施設運営課
	公設民営園	88%	100%	
	私立保育園	89%	100%	子ども施設整備課
	認証保育所	75%	100%	子ども施設入園課

関係機関と連携した主な事業一覧

事業・活動内容 【目標】	目的・具体的な内容 (指標の定義)	中間実績値 2016年度 (28年度)	最終目標値 2022年度	担当所管
年少児から給食後の歯みがき(毎日)を実施する園の割合を増やす	年少児クラスから、給食後の歯みがき(毎日)に取り組むよう、各施設に働きかける。			子ども家庭部
	私立幼稚園	53%	80%	子ども政策課
	区立保育園・こども園	5%	100%	子ども施設運営課
	公設民営園	56%	100%	
	私立保育園	70%	100%	子ども施設整備課
	認証保育所	70%	100%	子ども施設入園課
給食後の歯みがき(全学年・毎日)を実施する小中学校の割合を増やす	全学年・毎日歯みがきを行うよう働きかける。(小学校)	71%	100%	学務課
	全学年・毎日歯みがきを行うよう働きかける。(中学校)	11%	50%	
歯みがき指導を実施する学校の割合を増やす	歯科校医や養護教諭が中心に、染め出しを行うなど歯のみがき方についての保健指導を実施する。		100%	教育指導課
関係機関の歯みがき習慣づくりを歯科衛生士が支援する	給食後の歯みがきの定着や歯みがき習慣づくりについて、保健センター歯科衛生士が施設職員と連携し、支援を行う。 指標：実施施設数(年間)	20施設(年間)	22施設(年間)	データヘルス推進課、中央本町地域・保健総合支援課、保健センター
あだちっ子・いい歯推進園表彰応募施設数を増加する	歯科健診結果のフィードバックや啓発物等の作成をとおして、歯の健康づくりに取り組む園(所)の増加を目指す。 指標：応募園(所)数	26園	50園	
関係機関職員向けに啓発を行う	保育施設、幼稚園、小中学校等、関係機関職員に歯の健康を啓発するため、歯科保健教室を実施する。 指標：実施回数		10回	

- 資料編 -

【資料 1】

『足立区糖尿病対策アクションプラン・歯科口腔保健対策会議』名簿（平成29年度）

【庁外】

	所属等	氏名
1	東京医科歯科大学大学院 教授	川口 陽子
2	足立区歯科医師会 副会長	佐藤 和義
3	足立区歯科医師会 副会長	市川 敬一
4	足立区医師会	杉浦 立
5	足立区学校歯科医会 会長	岡谷 進

【庁内】

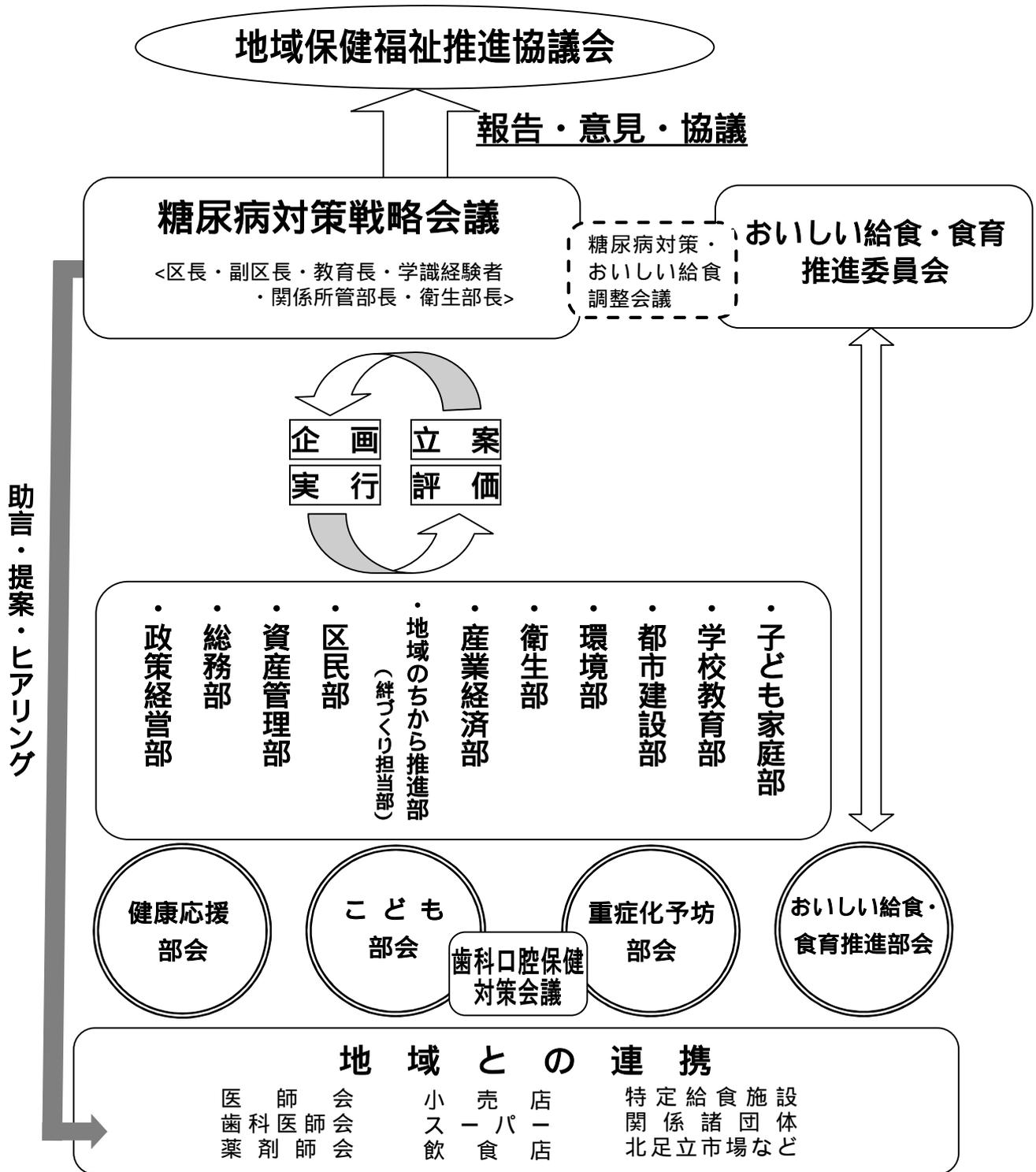
	部	課名等	氏名
1	衛生部長		今井 伸幸
2	区民部	国民健康保険課長	鈴木 克己
3	地域のちから推進部	住区推進課長	望月 義実
4	衛生部	衛生管理課長	山杉 正治
5		データヘルス推進課長	物江 耕一朗
6		保健予防課長	増田 和貴
7		こころとからだの健康づくり課長	馬場 優子
8	学校教育部	教育指導課長	小坂 裕紀
9		学務課長	渡邊 勇
10	学力定着対策室	就学前教育推進課長	小室 晃
11	子ども家庭部	子ども政策課長	松野 美幸
12		子ども施設運営課長	森田 剛
13	衛生部	竹の塚保健センター	信澤 希
14		江北保健センター	清水 久美

【事務局】

1	衛生部	こころとからだの健康づくり課 糖尿病対策担当係長	小林 智春
2		データヘルス推進課データヘルス推進係長	湯本 要
3		データヘルス推進課 多世代健康データ連携担当係長	鳥山 律子
4		データヘルス推進課 多世代健康データ連携担当	河野 満美子

【資料 2】 歯科口腔保健対策の推進体制

『歯科口腔保健対策編』は、糖尿病対策及びおいしい給食・食育対策編とともに次の体制により推進していきます。



足立区糖尿病対策アクションプラン・歯科口腔保健対策会議メンバー

- | | | | | |
|------|----------------|-----------|----------|----------------|
| 庁外 | 公社)東京都足立区歯科医師会 | 足立区学校歯科医会 | 社)足立区医師会 | 学識経験者 |
| 庁内 | 国民健康保険課 | 住区推進課 | 就学前教育推進課 | 教育指導課 |
| | 子ども政策課 | 子ども施設運営課 | 衛生管理課 | こころとからだの健康づくり課 |
| | 保健予防課 | 保健センター | | |
| ○事務局 | 衛生部データヘルス推進課 | | | |

【資料 3】

足立区の子どもの歯と口の健康づくりに関するアンケート結果（平成 28 年度）

<p><アンケート名> 平成 28 年度 保育施設・こども園・幼稚園における「歯科保健の取り組み」アンケート 平成 28 年度 足立区の学校歯科保健の取り組みに関する調査</p>	
調査時期	平成 29 年 5 月 2 日～6 月 1 日 平成 29 年 1 月 6 日～2 月 8 日
調査対象	私立幼稚園・私立認定こども園（53 園） 私立保育園（54 園） 区立保育園・区立認定こども園（34 園） 公設民営園（16 園） 認証保育所（20 施設）
回答率	区立小学校（69 校） 区立中学校（35 校） 私立幼稚園・私立認定こども園（100%） 私立保育園（100%） 区立保育園・区立認定こども園（100%） 公設民営園（100%） 認証保育所（100%） 区立小学校（100%） 区立中学校（100%）
担当所管	子ども政策課 子ども施設整備課 子ども施設運営課 子ども施設入園課 データヘルス推進課 学務課

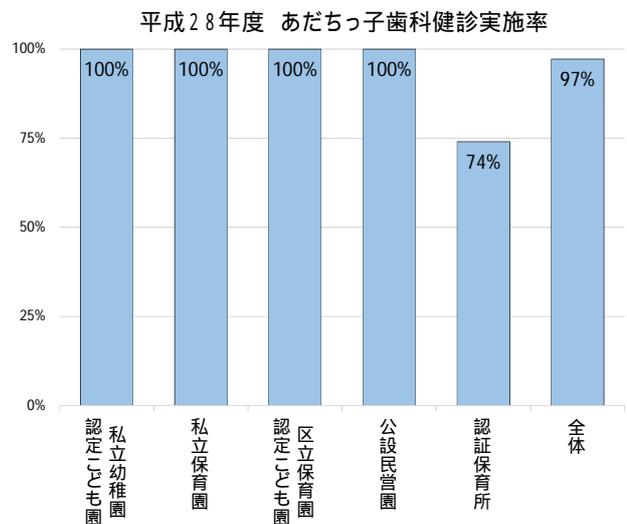
1 歯科健診について

(1) 歯科健診の実施状況

あだちっ子歯科健診(4歳～6歳)
 認証保育所を除き、100%の教育・保育施設で実施している。

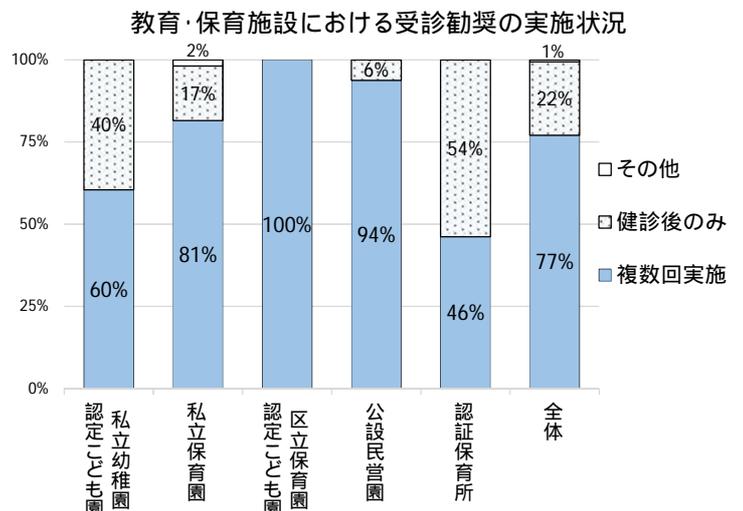
- 【あだちっ子歯科健診】
- ・ 統一帳票、統一基準で実施し、結果集計およびフィードバックを行う。
 - ・ 未通園児は、個別通知し、協力歯科医療機関で受診できる。

学校歯科健診(小学1年～中学3年)
 すべての小中学校で実施している。



(2) 歯科健診後の受診(治療)勧奨

あだちっ子歯科健診
 歯科健診後に、治療が必要な子どもの保護者へ複数回受診(治療)勧奨を実施している割合は、区立保育園が100%と最も高くなっている。

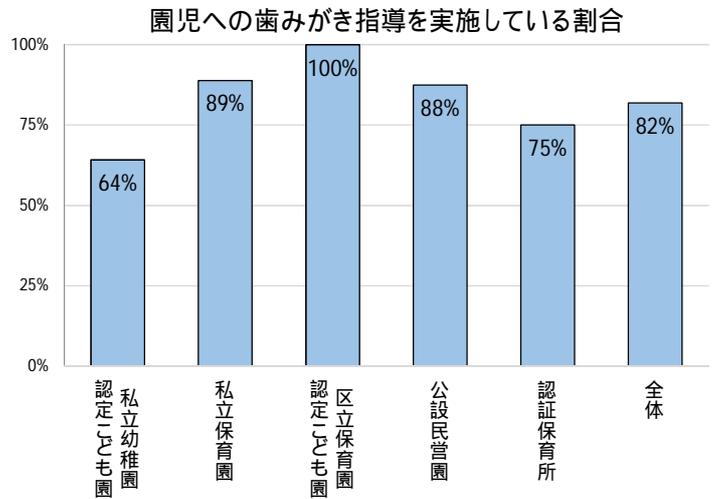


2 歯みがき指導等、歯科保健活動について

(1) 歯みがき指導の実施状況

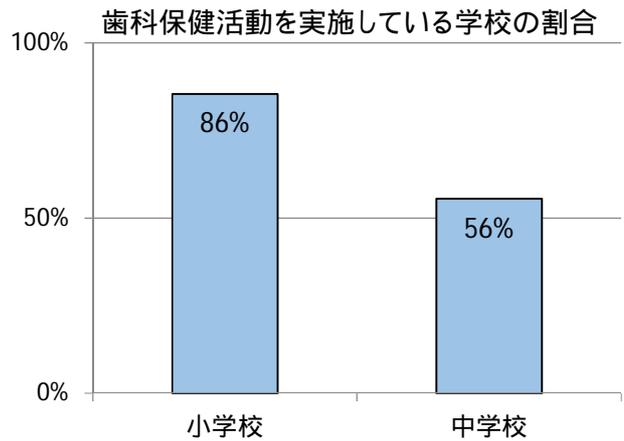
園児に歯みがき指導をしている教育・保育施設の割合

幼稚園より保育施設の割合が高い傾向にある。全体の実施率は、約8割である。



歯科保健活動に取り組む小中学校の割合

小学校86%、中学校56%が歯科保健活動に取り組んでいる。



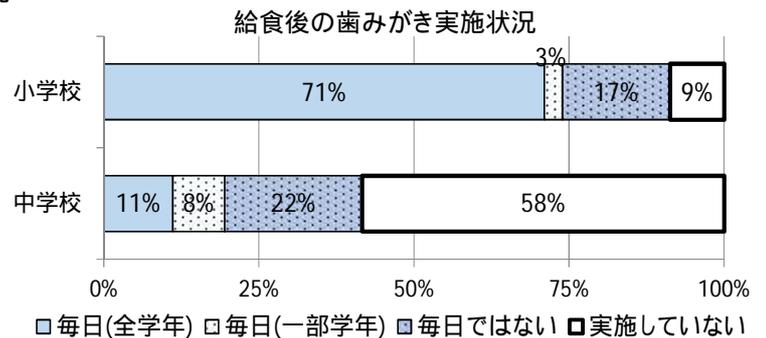
(2) 給食後の歯みがき

教育・保育施設の給食後の歯みがき実施状況

歯みがきの開始年齢や未実施など、施設により実施状況に差が見られる(P10参照)。

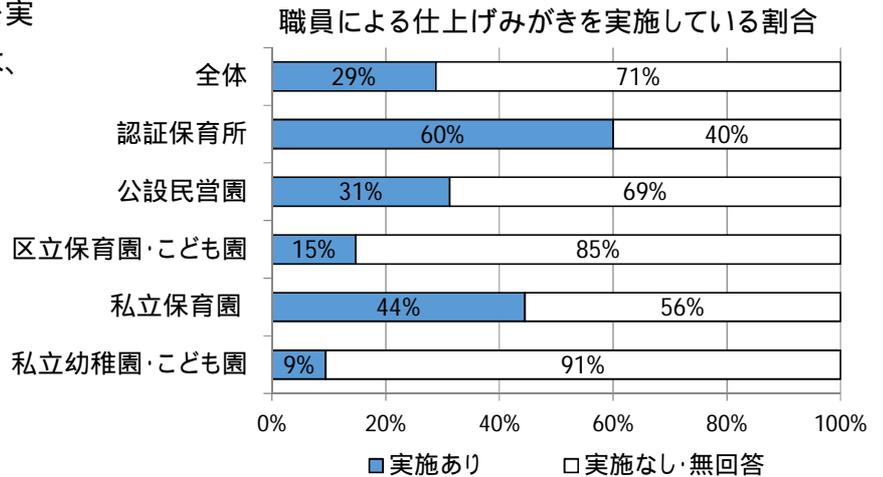
小中学校の給食後の歯みがき実施状況

給食後の歯みがきを全学年が毎日実施している割合は、小学校が71%、中学校が11%となっている。



(3) 仕上げみがきの実施状況

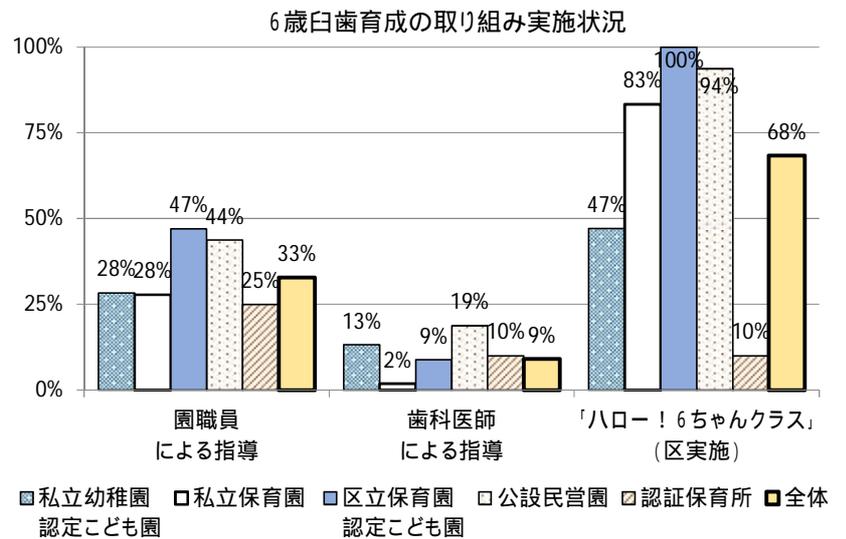
職員による仕上げみがきを実施している教育・保育施設は、約3割となっている。



(4) 6歳臼歯育成の取り組み

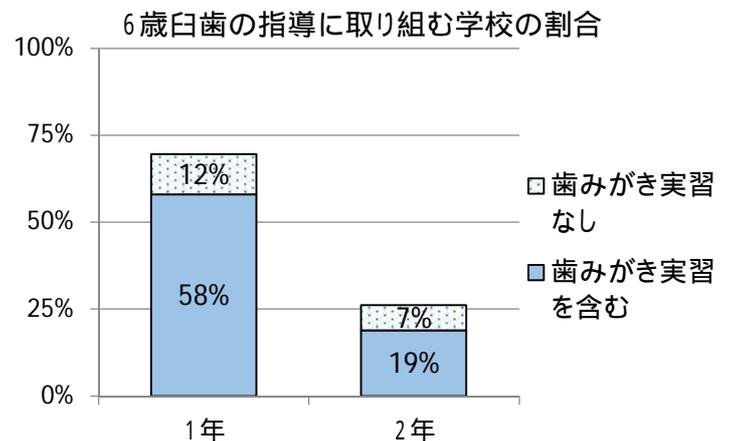
教育・保育施設における取り組み

区歯科衛生士による「ハロー6ちゃんクラス」、園職員による指導、歯科医師による指導の順に、実施割合が高くなっている。



小学校における取り組み

6歳臼歯の指導に取り組む小学校で、歯みがき実習を実施している割合は、1年生58%、2年生19%であった。

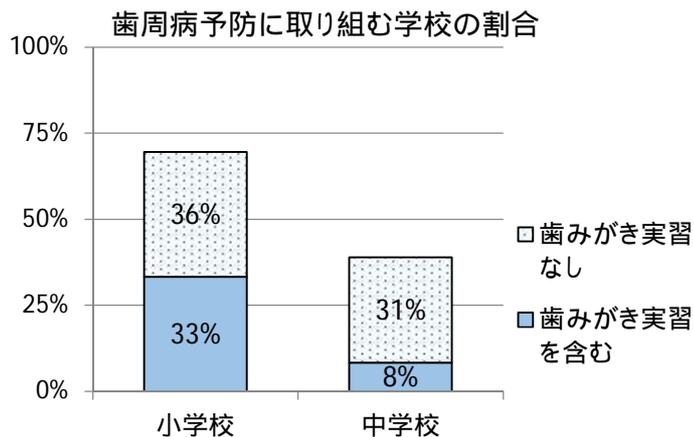


(5) 小中学校における歯周病予防の取り組み

歯周病予防に取り組む小中学校の割合

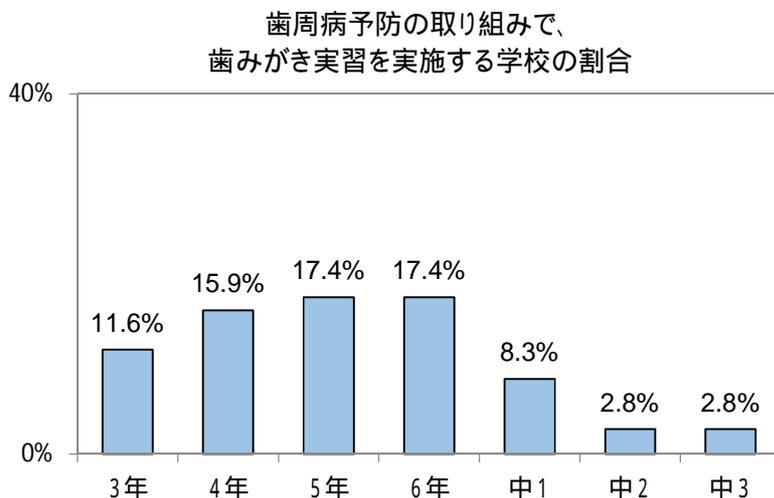
小学校は約70%、中学校は約40%が取り組んでいる。

取り組んでいる学校のうち、小学校では約半数が歯みがき実習を実施している。



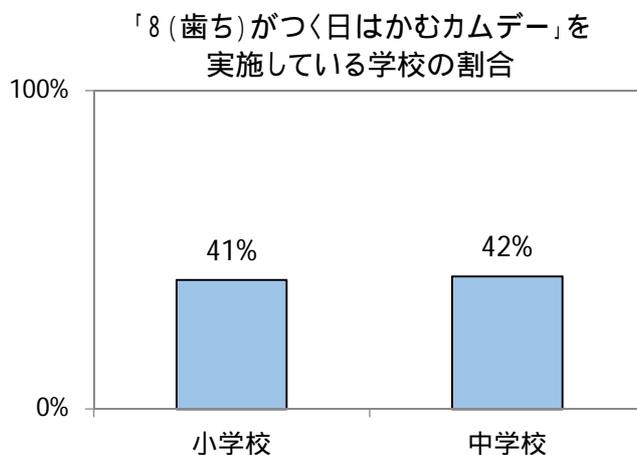
歯みがき実習を実施した学年の割合

の小中学校の実施学年をみると、小学校高学年の割合が最も多くなっている。



(6) 「8(歯ち)がつく日はかむカムデー」の取り組み

8(歯ち)がつく日に、噛みごたえのある献立や「よく噛んで食べよう」などの声かけに取り組む学校の割合は、小中学校とも約40%であった。





足立区糖尿病対策アクションプラン
歯科口腔保健対策編【中間見直しによる改定版】

平成30年3月発行

発行 足立区

編集 足立区 衛生部 データヘルス推進課

東京都足立区中央本町1-17-1

電話 03-3880 5601

印刷番号 29-2460

印刷 株式会社 ダイイチ

東京都足立区東綾瀬2-11-12

電話 03-5673-3221